

情報工学演習1 第1回



ガイダンス資料

【重要】特記事項

- ▶ 「情報工学演習1」は、**基本的に対面での実施**となります。
- ▶ 教員の都合等により、一部の回はオンライン実施となる可能性があります。
 - ▶ オンライン化される回があれば、適宜アナウンスします。
 - ▶ オンラインの場合、Moodle上で講義資料や課題を確認し、学内の演習室(情報端末室)のPC または 各自のPCでプログラミングを行う。
 - ▶ 本学の推奨スペックの環境があることを想定
 - ▶ 01_個人用ノートパソコン準備のご案内（2024年度必要スペック）
[https://www.omu.ac.jp/assets/01_個人用ノートパソコン準備のご案内\(2024年度....pdf](https://www.omu.ac.jp/assets/01_個人用ノートパソコン準備のご案内(2024年度....pdf)
- ▶ 各回の課題でプログラム等を作成・提出してもらい、TAが採点する。
- ▶ プログラム開発環境について
 - ▶ プログラムの挙動はPCの環境に依存するため、採点・評価に公平を期するために、開発環境を統一する。
 - ▶ Web上でプログラミングが可能なサービスの利用を予定。
 - ▶ 開発環境については、各回担当教員の指示に従うこと。
 - ▶ 指示と異なる環境で作成されたプログラムは正常に動作せず、0点となる場合がある。
- ▶ 各回での課題は**基本的に一週間後が期限**となるため、計画的に進めること。

【重要】特記事項

▶ 座席指定について

- ▶ Moodleに提示している**座席表に従い、必ず指定された席に着席すること。**

▶ 出席について

- ▶ 対面実施の回は、TAが出席を確認する。
※カードリーダーのタッチは行わないように！
 - ▶ 講義の最初にTAが出欠を確認します。
 - ▶ TAが出欠を確認した後に来た場合は、遅刻です。
 - ▶ 遅刻は0.5出席と扱い、遅刻2回で欠席1回とします。
 - ▶ 講義開始時間から45分経過後に来た場合は、欠席として扱います。
- ▶ オンライン実施の回は、
Moodle上の講義内容確認の小テストへの回答を出席の代わりとする。
- ▶ 全回出席を原則とし、本ガイダンスを除く
14回中 9回の出席を成績評価の最低条件とする。
- ▶ **出席が9回未満の場合、自動的に不可となる。**

【重要】特記事項

▶ 出席要件

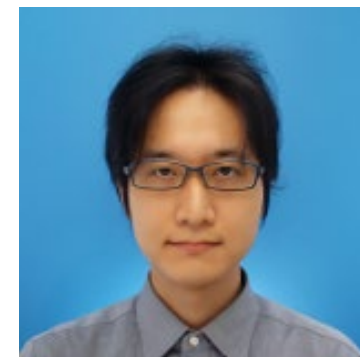
- ▶ 本ガイダンスを除く全14回で、出席を 1.0、遅刻を 0.5、欠席を 0.0 としてカウントし、成績評価には計 9.0 以上が必要
(つまり、**計8.5以下は成績評価の対象外**となる)

▶ 成績評価の対象外になる例

- 6回欠席の場合、
「 $1.0 \times 8 + 0.0 \times 6 = 8.0$ 」で対象外
- 5回欠席、1回遅刻の場合、
「 $1.0 \times 8 + 0.5 \times 1 + 0.0 \times 5 = 8.5$ 」で対象外
- 11回遅刻の場合、
「 $1.0 \times 3 + 0.5 \times 11 = 8.5$ 」で対象外

教員紹介(1)

- ▶ 氏名： 生方 誠希 (代表教員)
- ▶ 所属： 知能情報学分野
人間情報システム研究室
- ▶ 専門分野：
データの自動分類(クラスタリング)
曖昧性を考慮した柔軟なデータ処理
(ソフトコンピューティング)
ファジィ理論・ラフ集合理論
- ▶ 居室： 中百舌鳥キャンパス B4-E422
- ▶ オフィスアワー： 火曜 5コマ目



教員紹介(2)

- ▶ 氏名： 谷川 陽祐
- ▶ 所属： システム情報学分野
知的ネットワークング研究室
- ▶ 専門分野：
 - 無線ネットワークアクセス制御
 - 通信品質制御
 - ネットワーク省電力化制御
- ▶ 居室： 中百舌鳥キャンパス B4-W304
- ▶ オフィスアワー： 水曜 5コマ目



教員紹介(3)

- ▶ 氏名： 増山 直輝
- ▶ 所属： 知能情報学分野
計算知能研究室
- ▶ 専門分野：
クラスタリング
データマイニング
機械学習
- ▶ 居室： 中百舌鳥キャンパス B4-E409
- ▶ オフィスアワー： 金曜 5コマ



教員紹介(4)

- ▶ 氏名： 岡田 真
- ▶ 所属： 知能情報学分野
創発ソフトウェア研究室
- ▶ 専門分野：
 - 自然言語処理
 - 自然言語理解
 - 知識処理
- ▶ 居室： 中百舌鳥キャンパス B4-W308
- ▶ オフィスアワー： 月曜 5コマ目



TA

- ▶ 堀本 隆誠 M1
- ▶ 村田 知弥 M1
- ▶ 鳥越 大貴 M1
- ▶ 上田 裕也 M1
- ▶ 伊尾 大輝 M1
- ▶ 八乙女 大夢 M1
- ▶ 西条 貴登 M1
- ▶ 教室の座席に応じて担当TAを割り当てます.
- ▶ TAは課題を採点したり, 採点結果に対する問い合わせに対応したりする.

授業の目標

▶ Linux

- ▶ コマンドラインでの基本的な操作等

▶ TeX

- ▶ TeX でのレポートの執筆（卒論では必須）

▶ C言語

- ▶ 1年後期のプログラミング入門で学んだC言語の基礎の復習に加え、新たに以下のことを学ぶ
 - ▶ 分割コンパイル
 - ▶ 浅いコピーと深いコピー
 - ▶ ポインタの演算

▶ C++言語

- ▶ クラスなどの基本的な概念と使い方を学ぶ

教科書・参考書

- ▶ 教科書：なし
- ▶ 参考書

- ▶ (A) 「独習C++ 第4版」

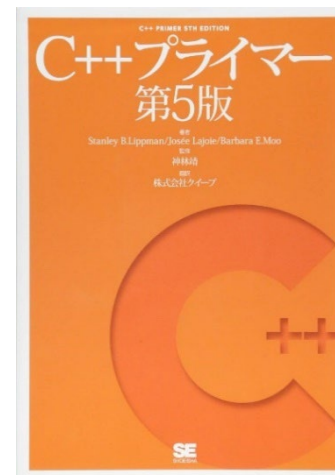
- ▶ ハーバート・シルト (著), 神林 靖 (監修), トップスタジオ (翻訳)

- ▶ (B) 「C++ プライマー 第5版」

- ▶ スタンリー・B・リップマン (著), ジョゼ・ラジョワ (著), バーバラ・E・ムー (著), 神林 靖 (監修), 株式会社クイープ (翻訳)

- ▶ (C) 「C実践プログラミング 第3版」

- ▶ Steve Oualline (著), 望月 康司 (監訳) (翻訳), 谷口 功 (翻訳)



参考書 (TeX, Shell)

▶ TeX の参考書

- ▶ 『[改訂第8版] LaTeX2 ϵ 美文書作成入門』,
奥村 晴彦 (著), 黒木 裕介 (著)

▶ Shell

- ▶ 『UNIXシェルスクリプトコマンドブック 第3版』,
山下哲典著, SB Creative, 978-4-7973-5735-6.
- ▶ 『詳解 シェルスクリプト』,
Arnold Robbins (著), Nelson H. F. Beebe (著), 日向 あおい(翻訳)



授業の予定

#	講義資料 公開日	課題提出 締切	内容	担当者
1	4/11		ガイダンス	生方
2	4/18	4/24	Linux 使用法1 (基本コマンド, 絶対・相対パス)	生方
3	4/25	5/8	Linux 使用法2 (パイプ, プロセス管理)	生方
4	5/9	5/15	Linux 使用法3 (TeX と演習)	岡田
5	5/16	5/22	プログラミング入門Aの復習1 (変数と制御構造)	岡田
6	5/23	5/29	プログラミング入門Aの復習2 (関数とファイル入出力)	岡田
7	5/30	6/5	C言語の演習1 (変数のスコープ, プリプロセッサ)	岡田
8	6/6	6/12	C言語の演習2 (分割コンパイル, 浅いコピーと深いコピー)	岡田

イベントのため
オンラインの予定

授業の予定

#	講義資料 公開日	課題提出 締切	内容	担当者
9	6/13	6/19	C言語の演習3 (make)	岡田
10	6/20	6/26	C言語の演習4 (ポインタの演算, 列挙型)	岡田
11	6/27	7/3	C言語の演習5 (総合演習)	岡田
12	7/4	7/10	C++の演習1 (Hello C++)	増山
13	7/11	7/17	C++の演習2 (クラス)	増山
14	7/18	7/24	C++の演習3 (コンストラクタ/デストラクタ)	増山
15	7/25	7/31	C++の演習課題	谷川

成績評価(1)

- ▶ 試験は行わない
- ▶ 課題のレポート(プログラム)により評価
- ▶ 基準を設けて採点する。完璧なものでなければ、満点にはならない。
- ▶ 授業支援システムに記入された各講義回の点は、後から見直し修正されることもあり、一度付いた点で確定される訳ではない。
- ▶ 指定のある場合を除き、**採点者は提出されたコードを一切修正しない。**

採点者がコードの修正を行わずに題意を満たすコードを作成するよう努めること。

成績評価(2)

- ▶ 締め切りを過ぎたレポートは受理せず， 0点とする.
 - ▶ 締切は各回で指定するので注意する.
- ▶ プログラムはコンパイルが通らないものは0点
 - ▶ 開発環境は各回で指定した環境に限定する.
 - ▶ コンパイルが通ってもエラー等で有効な表示がなければ0点
- ▶ **自分以外が書いたコード**（他学生のレポートやネット上に掲載されているコード等）をコピーしたものは 0点
 - ▶ コピーと判定された場合， その授業回の課題は全て0点とする
 - ▶ 複数の学生間でコピーが行われたと判定された場合， 無条件でそれら学生全員を0点とする.
※写させた側も0点になるので， 絶対に写させないように！
 - ▶ 通算で2回コピーと判定された場合， その時点で本授業を不合格とする.

コードを書く作業自体に加え， 各課題の文章を正しく理解してその文章からプログラムの処理手順やアルゴリズム等を論理的に考え， それをコードに変換する作業等は研究室配属後の研究活動で必須です． 研究室配属後に困らないよう頑張って各課題に取り組んで下さい．

講義資料・提出

- ▶ 授業支援システム(Moodle)
- ▶ <https://lms.omu.ac.jp/course/view.php?id=101504>

The screenshot shows the Moodle LMS interface for the course '2024前 情報工学演習1【木4】'. The top navigation bar includes the Moodle logo, 'Home', 'ダッシュボード', '授業科目', and a '編集モード' toggle. The left sidebar contains a list of course sections: '一般', '出欠', 'Google Classroom URL', 'アナウンスメント', and 'トピック 1' through 'トピック 15'. The main content area displays the course title and a list of sections: '一般', 'トピック 1', 'トピック 2', 'トピック 3', and 'トピック 4'. The '一般' section is expanded, showing '出欠' (Attendance), 'Google Classroom URL', and 'アナウンスメント' (Announcement). The '出欠' and 'Google Classroom URL' sections are marked as '受講生には不可視' (Not visible to students). The 'トピック 1' through 'トピック 4' sections are also visible.

講義に関する質問

▶ 対面授業の場合

- ▶ 担当TA or 教員に直接質問する

▶ 対面授業**外**の場合

- ▶ メールは使用しない
- ▶ 講義に関する連絡，質問対応を**Microsoft Teams**で行う
- ▶ 授業支援システムの指示に従って，
必ず本演習のチームへの参加をお願いします。

講義に関する質問

▶ 注意

- ▶ Teams以外(メール等)では質問を受け付けないので、**必ずTeamsで質問**すること。
- ▶ **チャネルでの質問は全体に公開される**ため、**ソースコードの添付はしない**こと。
- ▶ 「採点結果に対する異議申し立てや単位の相談等」は
教員のみに「チャット」で「**2024演習1教員**」タグを付けて送ること。
 - ▶ 採点結果に対する異議がある場合、必ず**授業支援システムに提出されたソースコード等をダウンロードし、確認、実行等を行う**ことで、異議の内容（コンパイルエラーと採点されたがコンパイルは成功する、実装の不備で減点されたがその不備は発生しない等）が正しいか確認してから質問すること。
 - ▶ よくある事例：
 - 受講生の手元にあるソースコードはコンパイルに成功するが、授業支援システムに提出されたソースコードではコンパイルエラーが起こる
- ▶ 評定の修正等に関して、**受講生とTA間のみでのやりとりは許可されません**。
必ず**担当教員を含めて**やりとりすること。

演習室を利用する上での禁止事項

▶ 演習室での飲食

- ▶ 飲食していた場合，減点します
- ▶ 注意しても飲食を続けていた場合，退室してもらった上でその日は欠席扱いとします
- ▶ どうしても飲食しなければならない場合は，実習室の外で飲食してください
- ▶ 口の開いた飲料（パック飲料など）を持ち込むのもダメです

▶ 本講義と関係ないこと

- ▶ 実験のレポート書きや別の講義の予習，携帯端末でのやりとり（LINEなど），全く演習をやらず寝る
- ▶ 本講義に関することであっても，教員の説明中に前回のレポート課題の作業をするなどはNG（減点対象となる）